

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立向日が丘支援学校 】

1 実践テーマ	【 IV 】
2 実施対象者	参加全校児童生徒 87名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 行事名(車いすバスケットボール みんなでシュート)
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック選手と直接交流し、競技を体験することでオリンピックやパラリンピックについて知り、興味関心を高める。 ・スポーツへの理解を深め、スポーツを身近に感じ、生涯を通じて取り組むきっかけをつくる機会にする。
5 取組内容	<p><事前学習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックの歴史や東京2020オリンピックに関する教材を校内掲示した。 ・長岡京市主催の東京2020パラリンピック聖火リレーの取組に参加した。 ・各学級でオリンピック・パラリンピックの調べ学習を行い、車いすバスケットボールについて興味関心を高めた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p><当日></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2004年アテネパラリンピック車いすバスケットボール女子代表選手阪根泰子様をお迎えし、講演や車いすバスケットボールの体験を行った。 <p>①講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御本人が車いす生活を送ることになった経緯や現在の生活、車いすバスケットボールに出会ったきっかけや選手としてパラリンピックで活躍された話等、講演して下さった。 ・どの生徒も興味をもって講演を聞くことができた。特に高校生で車いす生活になった生徒は話を聞いて共感していた。 <p>②競技用車いす体験と車いすバスケットボール体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技用の車いすの操作の仕方を教わり、初体験ではあったがクラスの友達と楽しく練習ができた。車いす操作はすぐに上達してみんなが嬉しそうだった。



③ゲーム

- 中学部、高等部は阪根さんも加わり、ゲームを行った。パスやシュートがどんどん決まり、白熱したゲームが繰り広げられた。学部を越えて作ったチームでのゲームは、普段関わりのない友達にも声をかけあってパスをする等、生徒のつながりが広がった。応援している生徒たちもエキサイトして、楽しい時間になった。
- 小学部はボール運びをする等、ゲームの仕方を工夫して楽しむことができた。



④まとめ

- 阪根さんより「初めての体験でも挑戦すると面白かったり、自信がもてたりすることがある。今やれることにどんどん挑戦して欲しい」とエールの言葉をいただいた。

<事後学習>

- 各クラスで振り返りを行い、阪根さんへ感想やお礼の手紙を書いた。



- 高等部は、オリンピック・パラリンピックのまとめを行った。

6 主な成果

- 競技用車いすを使用してバスケットボール体験を行った。全ての児童生徒がとても積極的に車いす操作やゲームに参加でき、楽しい取組の機会になった。
- ボールの種類や大きさ、硬さ、ゴールの種類や高さ等、様々な道具を用意したことで小学部から高等部まで全校が車いすバスケットボールという競技を楽しむことができた。また、重度重複のクラスの児童生徒も参加することができた。
- 阪根さんも児童生徒の実態に合わせて、それぞれが楽しめる方法で関わってくださり、共にバスケットボールを楽しめた。
- 車いすバスケットに興味をもった高等部の生徒に社会人クラブチームがあること教えてくださり、生徒も卒業後にやってみたいという感想を述べていた。生涯スポーツへの関心を高めることができた。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 校内にオリンピック・パラリンピックについての記事を掲示し児童生徒が気軽に見て興味関心がもてるようにした。 • 事前に阪根様に来校していただいて打ち合わせを行った。体育館の構造、生徒の様子を知っていただき、当日どのような準備や進め方が必要か等、丁寧な打ち合わせを行うことができた。 • 全校児童生徒が参加できるように当日の取り組み方を2部構成にして内容を工夫して、クラス毎に児童生徒の実態に合わせて選べるようにした。 • 全校児童生徒が楽しめるよう本来のバスケットボールに必要な道具以外（小さなボールや低いゴール）も用意した。 • 競技用車いすを10台借りて、リアルな体験ができるようにした。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 車いすバスケットボールの経験をきっかけにして様々なスポーツへの興味関心をもち、生涯スポーツへの興味関心も高められるよう指導や働きかけを継続する。 • 地域でどのようなスポーツ団体があるのか等の情報を収集し、校内で発信していくことで地域社会と連携したスポーツの取組が年間指導計画に位置づくようにしていく。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 今年度のような楽しく、質の高いオリンピック・パラリンピック教育を継続する。 • 児童生徒のスポーツに関する興味関心の向上やスポーツを楽しむ心の育成をめざし、生涯スポーツとして人気のあるスポーツや地域で盛んなスポーツが授業で取り組めるよう担任と地域社会連携部が連携して設定する。